

料理男の談義

今回の料理人



北砂在住
おのえいじ
小野英治さん

我が家には三人のこどもがいるのですが、平日は会社勤めで帰宅が遅いため、育児は妻に任せきりです。そこで、せめて休日だけでも家事に貢献できればと、昨年春にピギナーズ向け料理教室の門を叩きました。それまで料理のいろはも知らなかったので不安でしたが、受講してみて「いける！」と自信がわき、その後も「男の厨房」で月1回料理を学んでいます。

教室に通ってみて実感したのは、包丁さばきの多彩さ。それから、火加減についても体感してみてもその難しさが身にしみました。とくに油を使うときは、強すぎると表面的には美味しそうでも中は半生

だったりのするので、結構気を遣います。

今では、覚えた肉じゃがや玉子焼きなどを、休日に家族に振る舞えるようになりまし。こどもたちはパパの作る料理が珍しいのか、喜んで食べてくれます。妻も実家に所用で帰省する折など、食事面での不安が和らいだようです。今日挑戦したロールキャベツは、大きな葉に具材をぐるぐる巻きつける行程や味付けなど、男の料理という感じで、意外と作りやすかったです。

今年の目標は、月に一度でいいから、家族全員分の食事を用意すること。そのために、レパートリーを増やし、手際よく作れるよう頑張ります。

簡単レシピ!! ロールキャベツ

今年の目標は、家族全員分の食事づくりに挑戦することです!



材料(8個分)

キャベツ16枚、塩小さじ1、コショウ少量、具(合挽き肉400g、パン粉50g、牛乳大さじ2、タマネギ1/2個、卵1個、塩小さじ1弱、ナツメグ少量)、セロリ1/2本、ニンジン50g、タマネギ50g、ローリエ1枚、ベーコン4枚、水1ℓ、固形スープ1個、トマトソース(トマトピューレ大さじ4、バター10g、小麦粉大さじ1)

作り方

- ① 芯をくり抜いたキャベツをたっぷりの湯で芯側を下にして茹でる。芯の硬い部分を取り、塩コショウをふる。
- ② 具に混ぜるパン粉を牛乳に浸らせる。
- ③ みじん切りにしたタマネギと合挽き肉をよくこねる。塩・ナツメグを混ぜ、②を加えて混ぜ、8等分する。
- ④ バターを柔らかく練って小麦粉を混ぜてさらに練っておく。
- ⑤ ①で茹でた大小のキャベツの葉を、芯をずらして重ねる。やや芯よりに③を置き、手前(芯)から包む。ひと巻きしてから両端の葉をかぶせてさらに巻く。
- ⑥ 鍋に薄切りにしたニンジン、タマネギ、セロリを敷き、その上にロールキャベツ、いちばん上にベーコンとローリエを乗せて水と固形スープを入れ、落としフタをし、中火で40～50分煮込む。
- ⑦ 別の鍋に⑥からとった煮汁(足りない分は水)1カップ・トマトピューレを入れて中火で混ぜ、④を加え泡立て器で一気に入混ぜる。
- ⑧ 器にロールキャベツを盛り、⑦のトマトソースをかける。



江東のひと

東京ガス株式会社
商品開発部 温水技術グループ
藤田理子さん

男性の多い職場でも自然体が基本!
周囲との連携で生活者志向の製品開発を

明治通りを横道に入ると、巨大なガス備蓄タンクや多数の太陽熱パネルが目飛び込んできます。ここは荒川区にある東京ガス千住テクノステーション。実験棟に足を踏み入れれば、扉の奥に実住宅を模擬した実験室が腰を据え、機材や工具が所狭しと並んでいます。商品開発部に身を置く藤田さんは、この実験室で黙々とさまざまな実験に携わったり、時には社内外の関係者と議論を交えたりしながら、製品の開発に取り組んでいます。

「学生時代から、人々の暮らしを支える仕事につけたらと考えていました。一方で、社会

の多様なニーズに柔軟に対応するゼネラリストのような働き方にも憧れていたんです。」

ユーザーの視点に立って製品開発に取り組む

現在は家庭用ガス温水システムの端末機器開発を担当されています。伺ったときは、ミストサウナの性能試験中。近年省エネ志向が高まっていることもあり、消費エネルギーの少ない環境に配慮した商品開発や、ユーザーがより使いやすくなるような商品開発に力を入れています。当然ながら、開発には企画、施工



自分が開発に携わったガス機器などを友人や知人が使っていると聞くと、ついうれしくなります。

「例えば、導管工事の現場監督に女性が就くこともあるんですよ。といて男性と張り合うわけではなく、みんなごく自然体なんです。」

周りに目を向けても、ほとんどの女性社



Profile

大島在住。2007年慶應義塾大学大学院理工学研究科 総合デザイン工学専攻前期博士課程修了。同年東京ガス株式会社に入社、商品開発部温水技術グループに配属、現在に在る。学生時代の趣味の一つは海外旅行。夢はいつかリュックひとつで世界中を旅すること。

男性に交じて活き活きと働く女性社員の姿に共鳴

女性が活き活きと働ける環境の中で、このような責任のある仕事を任されていることが、さらなるモチベーションにつながっていると語る藤田さん。

**本誌に対する皆さまのご意見
ご感想をお待ちしています**

江東区総務部人権推進課
〒135-8383 江東区東陽4-11-28
☎ 3647-1163 FAX 3647-9556
Eメール:jinkensuishin@city.koto.lg.jp

「こうして仕事を続けられるのは夫のおかげでもあるのですが、実際はお互いに認め合っているからかな(笑)」家の中では、自然と夫婦間で役割分担ができています。

「私も将来こどもができて、制度を活用して職場に復帰したいと思っています。そして、次の世代にも暮らしやすい生活環境を残していける仕事に携われたいですね。」